平成 30 年度
(公社)全日本鍼灸学会
第 38 回近畿支部学術集会
講演要旨集

日時：平成 30 年 11 月 23 日(金)

会場：明治東洋医学院専門学校

主催 (公社)全日本鍼灸学会近畿支部

平成 30 年度 (公社) 全日本鍼灸学会 第 38 回近畿支部学術集会 開催概要

【会 期】 平成 30 年 11 月 23 日(金)

【会 場】 明治東洋医学院専門学校 講堂

〒564-0034 大阪府吹田市西御旅町 7-53

TEL(06)6381-3811 FAX(06)6381-3800

【主 催】 (公社)全日本鍼灸学会近畿支部

【参加受付】 時 間：9:00～14:30 場 所：2F 講堂

参加費：会 員 2,000 円、学生会員 1,000 円

一 般 3,000 円、一般学生 2,000 円

※一般学生の方は学生証の提示が必要です。

【認 定】 学会参加 5 点

【昼 食】 会場および最寄り駅周辺に飲食店はほとんどありません。

当日、食堂は営業していません。

各自昼食をご持参の上、2 階食堂にてお召し上がりください。

【関連会議】 近畿支部学術委員会 12:00～12:45 2F 会議室

【事 務 局】 明治東洋医学院専門学校(担当 河井正隆)

〒564-0034 大阪府吹田市西御旅町 7-53

TEL(06)6381-3811 FAX(06)6381-3800

【交通案内】 阪急千里線(北千里行)梅田駅から約 11 分の「下新庄駅」下車徒歩 5 分

詳細は <http://www.meiji-s.ac.jp/> よりご確認ください。

演者・座長・聴者へのご案内

1. 演者・PC 受付

時 間：9:00～13:00 場 所：2F 講堂前

※一般演題 I・II で発表されるセッションの

開始 60 分前までに USB メモリにてデータを PC 受付にご提出ください。

2. 発表時間(一般演題)

発表 7 分・討論 5 分 時間厳守でお願いいたします。

3. 発表方法

- ①発表は PC プレゼンテーション(1 面映写)となります。
- ②PC の構成は Windows 7、Microsoft Power Point2010 となります。
- ③Power Point のページ設定において「標準(4:3)」に設定してください。
- ④フォントは、Windows 7 に標準搭載されているものをご使用ください。
- ⑤アニメーション機能は使用可能ですが、動画や音声は再生できません。
- ⑥スライド枚数に制限はありません。ただし、発表時間を厳守してください。
また、最後のスライドは【結語】として発表内容を箇条書きにまとめてください。
※画面をぎりぎりまで使用すると、再現環境の違いにより、
文字や画像のはみ出しなどの原因になることがあります。

4. 進 行

- ①演者の方は、発表開始 10 分前までに会場最前列左の次演者席にお着きください。
- ②発表者は、座長の指示に従って発表を行ってください。
- ③PC の操作は、演台にてご自身でお願いいたします。
- ④発表開始 6 分時に鈴を 1 回、7 分(発表終了)時に鈴を 2 回、12 分(討論終了)時に
鈴を 3 回鳴らしますが、討論等の進行は座長にお任せいたします。
- ⑤座長は、セッション開始 10 分前までに、会場最前列右の次座長席にお着きください。
- ⑥発表・討論を含めて 12 分以内で終了するようにお願いいたします。

5. 討 論

- ①各発表において、それぞれ討論が行われます。
- ②討論は、所属・氏名を述べた後、簡潔にご発言ください。

プログラム

開会の辞 9:48-10:00

(公社)全日本鍼灸学会近畿支部長 尾崎朋文 (森ノ宮医療大学)

一般演題Ⅰ 10:00-11:00

座長 王財源(関西医療大学) 和辻直(明治国際医療大学)

01 長胸神経の走行についての肉眼解剖学的検討-長胸神経への刺鍼の可能性について-

○尾崎朋文^{1,2,3}、涌田裕美子^{1,2}、辻丸泰永^{1,2}、大月隆史^{1,2}、松下美穂^{1,3}、由良拓巳^{1,3}、門野章^{1,3}、森谷正之^{1,2}、北村清一郎¹、吉田篤^{1,4}、松熊秀明²

1)大阪大学歯学部口腔解剖学第二教室鍼灸柔整理学解剖グループ

2)森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科

3)森ノ宮医療専門学校鍼灸学科

4)大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座

02 鍼灸治療の安全性向上に関する文献的検討(7)-皮膚疾患-

○古瀬暢達¹、山下仁²

1)大阪府立大阪南視覚支援学校、2)森ノ宮医療大学鍼灸情報センター

03 『本草綱目』の食材表記の検討-特に食材の性質(気味)について-

○日開美月、大田麻由美、上野哲平、相台悠太、田中良典、奈良上眞

大阪医療技術学園専門学校東洋医療技術教員養成学科

04 鍼灸における芳香療法の一考察

○久野利和

関西医療大学大学院保健医療学研究科

05 出土資料にみる「氣」による長生術への一考察

○王財源

関西医療大学保健医療学部

休憩 11:00-11:12

一般演題Ⅱ 11:12-12:00

座長 松熊秀明(森ノ宮医療大学) 吉田行宏(明治国際医療大学)

06 生活習慣と体温からみた若年女性の冷え症の特徴

○三浦大貴、坂口俊二

関西医療大学鍼灸学ユニット

07 心地よい鍼刺激に向けての検討

○古田高征

履正社医療スポーツ専門学校

08 月経周期の異常に対する鍼治療の効果-血中レプチン濃度とその他ホルモンへの影響-

○仲村正子¹、田口玲奈²、伊藤和憲²

1)森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科、2)明治国際医療大学鍼灸学科はり・きゅう学講座

09 高強度運動前の鍼通電刺激がエネルギー代謝と運動パフォーマンスに及ぼす影響

○吉田行宏

明治国際医療大学鍼灸学部はり・きゅう学講座

昼食 12:00 -13:00

12:00-12:45 近畿支部学術委員会(2F 会議室)

特別セッション「診療機器等の啓蒙」 13:00-13:10

座長 齊藤真吾(平成医療学園専門学校)

・株式会社山正 13:00-13:05

・セイリン株式会社 13:05-13:10

一般演題Ⅲ 13:10-13:58

座長 佐野淳子(神戸海星鍼灸院) 河井正隆(明治東洋医学院専門学校)

10 月経中における月経随伴症状に対する鍼灸治療の効果

-婦人科疾患を有する 36 名 2 月経周期の検討-

○高橋涼子¹⁾、中村真理^{1,2,3)}

1)関西東洋医学臨床研究会、2)森ノ宮医療大学、3)まり鍼灸院

11 頭部・体幹に著明な不随意運動を認めたジストニア患者に対する鍼治療効果

○安田清華^{1,2)}、高橋護^{2,3)}、井尻朋人⁴⁾、谷万喜子⁵⁾、鈴木俊明⁵⁾

1)関西医療大学附属診療所研修員、2)健康スタジオキラリ kirari 鍼灸・マッサージ院

3)スピカ鍼灸・マッサージ院、4)医療法人寿山会法人リハビリテーション部

5)関西医療大学大学院保健医療学研究科関西医療大学保健医療学部

12 鍼灸における補完代替医療効果の検討 (第 18 報)

-急性脳梗塞(ブローカ言語野損傷)に対する鍼灸治療(2 症例) -

○花谷貴美子

花谷整骨鍼灸院

13 勃起障害に対する中髎穴と陰部神経鍼通電刺激の併用効果

○伊佐治景悠¹⁾、邵仁哲²⁾、北小路博司³⁾、平尾穂那美⁴⁾、高羽夏樹⁵⁾、
角谷英治⁴⁾、納谷佳男^{5,6)}

1)SR 鍼灸烏丸、2)京都第二赤十字病院泌尿器科、3)宝塚医療大学保健医療学部鍼灸学科、

4)明治国際医療大学はり・きゅう学講座、5)明治国際医療大学泌尿器科学教室、

6)長浜市立湖北病院泌尿器科

休憩 13:58-14:10

特別セッション「新認定制度」 14:10-14:30

○坂口俊二

(公社)全日本鍼灸学会教育研修部認定改革検討委員会

特別講演 14:30-15:30

「ストレス反応・疾患(心の病)に対する鍼灸刺激の効果」

講師 福田文彦(明治国際医療大学大学院教授)

座長 坂口俊二(関西医療大学大学院教授)

閉会の辞 15:30-15:40

(公社)全日本鍼灸学会近畿支部学術委員 河井正隆(明治東洋医学院専門学校)

一般演題

01 長胸神経の走行についての肉眼解剖学的検討

ー長胸神経への刺鍼の可能性についてー

○尾崎朋文^{1,2,3)}、涌田裕美子^{1,2)}、辻丸泰永^{1,2)}、大月隆史^{1,2)}、松下美穂^{1,3)}、
由良拓巳^{1,3)}、門野章^{1,3)}、森谷正之^{1,2)}、北村清一郎¹⁾、吉田篤^{1,4)}、松熊秀明²⁾

1)大阪大学歯学部口腔解剖学第二教室鍼灸柔整理学解剖グループ

2)森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科

3)森ノ宮医療専門学校鍼灸学科

4)大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座

【目的】 昨年、刺鍼による長胸神経麻痺が報道された。しかし、刺鍼で長胸神経麻痺を起こすことが可能かどうか疑問である。本研究では、長胸神経の走行について局所解剖学的に調査し、刺鍼の可能性を検討した。

【対象と方法】 対象は大阪大学歯学部実習用御遺体5体を用いた。前頸部から側胸部にかけての長胸神経の走行を検討した。調査項目は、①第6頸椎横突起前結節（以下C6前結節）と長胸神経との位置関係、②欠盆穴（大鎖骨上窩で鎖骨中央上際）への刺入針と長胸神経との位置関係、③中斜角筋と前鋸筋移行部と長胸神経との位置関係、④淵腋穴（中腋窩線と第4肋間の交点）への刺入針と長胸神経との位置関係を調査した。

【結果】 ①5例全例において、長胸神経はC6前結節の外方で第5～7頸神経の上・中神経幹の深部を上内側から下外側へ走行する。第6および7頸神経からの長胸神経はともに幅は1.5mm、厚みは0.5mmであった。②欠盆穴への針は、浅層から腕神経叢や鎖骨下動静脈を貫通後、長胸神経の近傍に位置し、その後、中斜角筋に至る。③中斜角筋と前鋸筋移行部と長胸神経の位置関係においては、全例ともに鎖骨の深部で、腋窩動静脈や腕神経叢の深部に位置した。④側胸部での長胸神経は全例において肩甲骨と広背筋の腹側で、後腋窩線の後方に位置した。淵腋穴への刺入針は全例において長胸神経の前方に位置した。長胸神経の幅は2mm、厚みは0.5mmであった。

【考察と結語】 長胸神経の大きさや走行と周辺の解剖構造を調査した結果、欠盆穴への針は腕神経叢と鎖骨下動静脈の深部に、中斜角筋と前鋸筋移行部は、鎖骨と腕神経叢と鎖骨下動静脈の深部で、単独での刺鍼は不可能と考える。それ以前に動静脈や腕神経叢を損傷する可能性が高いことが示唆された。側胸部では、長胸神経は淵腋穴の後方で、後腋窩線の後方で肩甲骨や広背筋の腹側を上下に走行することから刺鍼の可能性は極端に低いことが示唆された。

キーワード：肉眼解剖、長胸神経、淵腋穴、欠盆穴、有害事象

02 鍼灸治療の安全性向上に関する文献的検討(7)

－皮膚疾患－

○古瀬暢達¹⁾、山下仁²⁾

1)大阪府立大阪南視覚支援学校

2)森ノ宮医療大学鍼灸情報センター

【目的】 鍼灸治療の安全性向上のため、国内で鍼臨床に関連して生じたとされる皮膚疾患をまとめ分析・検討を行った。

【方法】 医中誌Web及びPubMedを利用し、鍼臨床における皮膚疾患の有害事象症例報告論文を検索した(2018年7月実施)。対象期間は、1980年以降とした。検索キーワードは、医中誌Webにおいて「皮膚(症例報告)、銀皮症、金属アレルギー」などを用い、PubMedではMeSH termsにおいて日本語に準じた語を用いた。収集された文献を基に、病証・原因・鍼施術の状況・年代別比較について分析を行った。

【結果】 34文献46症例が収集された。埋没鍼が原因のものは、局所性銀皮症18文献23症例、亜急性痒疹1文献1症例、色素沈着1文献1症例であった。患者の体質(基礎疾患や金属アレルギーなど)が原因と考えられるものは10文献12症例で、結節性紅斑、接触性皮膚炎、扁平苔癬、シリコン肉芽腫、蜂窩織炎様紅斑、サルコイド反応などであった。その他、直流鍼通電による色素沈着、丘疹が急激に増大して悪性黒色腫と診断された症例、不適切な治療(医師による注射針を用いた刺絡)によるアトピー性皮膚炎の悪化、長期・過剰な治療による有棘細胞癌があった。年代別では、1980年代が9文献11症例、1990年代が12文献18症例、2000年代が11文献15症例、2010年代が2文献2症例であった。

【考察】 埋没鍼が原因の局所性銀皮症が約半数と大きな割合を占めていた。意図的に鍼を体内に埋没させることは厳禁である。重篤な症例としては、悪性黒色腫や有棘細胞癌が報告されていた。皮膚病変局所への刺鍼および過剰刺激の長期間継続は有害事象を誘発するリスクがあることを認識する必要がある。また、患者の体質に由来する皮膚病変が少なからず報告されていた。金属を体内に刺入するという鍼治療の性質上、金属アレルギーなど副作用を引き起こす可能性を完全に排除することはできない。事前に皮膚疾患の既往がないかを確認するとともに、患者に皮膚症状が現れた場合は直ちに治療を中止し専門医への受診を勧めるべきである。年代別では、2010年代が特に少なかった。

【結語】 近年、鍼治療後に発症した皮膚疾患の報告は減少していた。これらの症例から学び、卒前・卒後の安全教育に反映していくことが重要である。

キーワード：皮膚疾患、銀皮症、金属アレルギー、埋没鍼、文献調査

03 『本草綱目』の食材表記の検討

—特に食材の性質（気味）について—

○日開美月、大田麻由美、上野哲平、相台悠太、田中良典、奈良上眞

大阪医療技術学園専門学校東洋医療技術教員養成学科

【はじめに】 鍼灸治療後の食養生は健康回復に意義があると考えられる。一部の食材は五行学説の配当で説明されるが、多くの食材はその特性を明確にしていない。そこで中国本草学の中で初版直後から高く評価され、本草学の基本書とする『本草綱目』に着目して検討を行った。

【研究方法】 今回、『本草綱目』に収載する1892種の薬物食材の中で、特に穀物類、野菜類、果実類、魚鱗類、家禽類、獣類の食材の「性味（五味、四気）」を抽出し、各食材分類に対する気味（五味、四気）の品数およびその割合を調査し、鍼灸治療後の食養生の活用性を検討した。対象文献は1930年に出版された影印本『本草綱目』（底本は清光緒11年（1885年）張紹棠的重校本）とした。

【結果】 『本草綱目』項目の食材数は穀物類71品目、野菜類105、果実類104、魚鱗類93、家禽類76、獣類86であった。また五味（酸、苦、甘、辛、鹹）について穀物類で甘味を含む食材は45品目（穀物類71品目に対して甘味の45品目の割合が63%）。野菜類で甘味60（57.1%）辛味33（31.4%）。果実類では甘味65（62.5%）、酸味34（32.7%）。魚鱗類で甘味65（69.9%）。家禽類で甘味42（55.3%）。獣類で甘味43（50%）であった。四気（寒、涼、平、温、熱）について穀物類で平性の性質の食材は20（穀物類71品目に対して28.2%）、温性18（25.3%）。野菜類で温性31（29.5%）、平性30（28.6%）、寒性30（28.6%）。果実類で平性39（37.5%）、温性36（34.6%）、寒性23（22.1%）。魚鱗類で平性39（41.9%）、温性26（30.0%）。家禽類で平性29（38.2%）、温性27（35.5%）。獣類で平性26（30.2%）であった。

【考察、まとめ】 文献調査の結果、穀菜果魚禽獣類の全食材数に対しての五味は甘味59.8%、辛味12.5%、酸味12.3%の特徴。同様に四気は平性34.2%、温性29.2%、寒性15.9%の特徴があった。これら甘味の傾向が高いのは旨味感覚を含んでの結果とも考え、四気の偏りの少ない平性は常用性食材としての活用とも考えられる。また食材を気味分類することで、鍼灸治療後の食養生の活用性が高まると考える。

キーワード：本草綱目、食養生、文献、五味、四気

04 鍼灸における芳香療法の一考察

○久野利和

関西医療大学大学院保健医療学研究科

【目的】 現在、アロマオイルなどの「香」が注目されている。また、鍼灸治療においても一部の臨床家が治療室で用いている。しかし、中国の伝統医学には「香」についての先行文献が少なく、これまで古典的な観点での研究が多くはない。そこで、中国の古代文献より「香」について文献研究を行い、鍼灸における芳香療法の存在を検討した。

【方法】 研究の途中経過ではあるが、今回の調査対象は前漢(紀元前206～紀元8)から明(1368～1644)までの医書12文献を挙げた。『神農本草経』(作者不詳 前104年頃)、『傷寒論雑病論』『金匱要略』(張仲景210年頃)、『鍼灸甲乙経』(甲甫謚256年頃)、『名医別録』(陶弘景493年頃)、『備急千金要方』(孫思邈652年)、『外台秘要』(王燾752年)、『重廣補注黄帝内経素問』、『黄帝内経靈枢』(1230年頃宋版)、『本草綱目』(李時珍1578年)、『神農本草経疏』(繆希雍1600年頃)、『證治準繩』(王肯堂1600年頃)などの文献から「香」について調査した。方法は、まず、多くの医書文献から検索を迅速かつ効率的に行うために関西医療大学所蔵の『歴代漢方名作選(繁体字図版・凱希メディアサービス)』、文淵閣『四庫全書』電子版(迪志文化出版)を用いて検索を行い原本との確認を行った。尚、原本との確認が困難なものは影印文淵閣本『四庫全書』(驪江出版社)を使用した。

【結果】 『神農本草経』や『名医別録』を始め、『本草綱目』には、香薬として「白芷」、「当帰」などの名前が列挙され、芳香利用の記述は有るが、独立した芳香療法として今回の研究では見られなかった。

【考察】 後漢以降に発展してきた道家による長生医学が養生学となり、食養や健康意識の高揚に繋がり、口に含むだけでなく、体内に取り込む事で身体の浄化を図る薬物的な効果を得ようとした。このことにより数種類の香草、香木を混ぜ合わせる事で、目的別の薬理効果を得ようとする考え方が、後漢に成立したと考えられる。また、邪気を散らすという当時の道教医学の存在も否めないため、伝統医療文化の術式の1つとして加えられたことが示唆された。

【結語】 今後の課題として、香りと身体がどのように繋がっていったのか、さらに研究文献を増やして検討したい。

キーワード：香、芳香療法、鍼灸、医書文献

05 出土資料にみる「氣」による長生術への一考察

○王財源

関西医療大学保健医療学部

【目的】 1972年から74年にかけて、中国の湖南省長沙市の馬王堆で前漢代（紀元前206・紀元25年）の墓が発掘された。その中には古代中国の医学水準を彷彿とさせる医書『陰陽十一脈灸經』『五十二病方』等々が発見された。一部の出土資料には「氣」がみられ、とりわけ『天下至道談』『十問』『合陰陽方』には房中の「氣」が記され、後の班固が『漢書藝文志』方技略に含まれた。しかし、これらの資料が東洋医学の「氣」の思想との関わりを論じた文献は少ない。そこで今回は出土資料や先行文献から馬王堆の「氣」を考察し、後世の東洋医学とのつながりを検討した。

【方法】 馬王堆漢墓帛書整理小組『馬王堆漢墓帛書』文物出版社、1983年。湖南省博物館、復旦大学出土文献與古文文字研究センター編纂『長沙馬王堆漢墓簡帛集成』中華書局、2014年。大形徹、馬王堆出土文献訳注叢書編集委員会篇『胎産書・雜禁方・天下至道談・合陰陽方・十問』東方書店、2015年等々、計10冊の資料を用い、東洋医学的な概念との考察を試みた。

【結果】 限られた資料ではあるが『天下至道談』『合陰陽方』『十問』の随所には「氣」が記されていた。また、『合陰陽方』の具体的な実践方法に房中（養生説の1つ）術があり、男女間での「氣」の取り入れ方を提示していた。しかし、長生の考え方については東洋医学と共通点があるものの、医書の「氣」の概念には、大形が指摘するように邪気を始めとする病因論的な「氣」が含まれるため、方法論について両者を分類する必要性が示された。

【考察】 『十問』は房中ならびに長生術を論じ、具体的な実践内容を示すものに『天下至道談』『合陰陽方』がある。いずれも人のエネルギー源を「氣」とし、この「氣」が衰えると体の老化を早めて諸疾患を起こす。『天下至道談』に「氣有八益、有有七孫（損）」とあり、後世の『黄帝内經素問』陰陽応象大論の「七損八益」に通じる。『十問』には「治氣之精、出死入生」と載り、「氣」の衰えが老化を早めるという、反対に「氣」が充たされると、美しさと若さが維持できるという東洋医学と共通した概念がある。よって、遠古では男女間で、後世では自然界より取り込む「氣」による長生観に自ずと区別され、道家思想の発展とともに「氣」の調和に注目したと考えられる。

【結語】 「氣」を生命の根源とする遠古中国で、「氣」を充たす方法に長生術がある。それらは医書とは異なった記述がみられた。後世、自然との「氣」の共生を提唱し、健康との調和を図るといった目的が東洋医学にも受け継がれた。

キーワード：馬王堆、氣、房中、長生術

06 生活習慣と体温からみた若年女性の冷え症の特徴

○三浦大貴、坂口俊二

関西医療大学鍼灸学ユニット

【目的】 若年女性の冷え症の特徴を生活習慣や体温などから検討し、鍼灸臨床研究での対象者の適格基準に繋げる。

【方法】 対象は若年女性14名（平均21.0歳）で、楠見ら（以下、K）、Sakaguchiら（以下、S）、坂口ら（以下、SA）の冷え症判定基準で、それぞれ冷え症群と非冷え症群に分類し、馬らの作成した生活習慣調査、月経との関連をカイ二乗検定（フィッシャー直接確率法）で検討した。さらに、K・S・SAの判別得点と基本情報、生活習慣調査、月経、血圧、体温、冷え関連愁訴数および体温較差との相関関係をピアソン積率相関（スピアマン順位相関）で検討した。なお本研究は、関西医療大学倫理審査委員会の承認を得て行った。

【結果】 3つの冷え症判定での‘冷え症群’・‘非冷え症群’分類の一致率は85.7%であった。群分類と生活習慣、月経との関連では、冷え症群に「冷え症を中・高校生から感じ始めた」が3つの判定に共通し、Sでのみ「運動頻度は週1回未満である」がみられた。3つの判別得点と基本情報、血圧、体温、生活習慣などとの相関では、共通して得点が高い程、「冷え症を思春期に感じ始めている」、Kのみで「1週間の運動頻度が少ない」、SAのみで、下腹部深部温が低かった。さらに、体温較差との相関では、KとSAとで得点が高い程、腋窩温・鼓膜温と合谷の皮膚温との較差が大きかった。

【考察・結語】 若年女性の冷え症判定について、現行3つの判定基準での一致率は高かったことから、自覚のみに依拠しない方法として使用できる可能性が高まった。冷え症群、判別得点が高い程、冷えを感じ始めた時期が早いことから、その原因を探るヒントになるかもしれない。体温との関連では判定基準間で差異はあるものの、判別得点が高い程、合谷の皮膚温が低い、鼓膜温・腋窩温との差が大きいなどの特徴もみられた。今後、例数を増やして、冷え症の特徴をより浮き彫りにし、鍼灸臨床研究での対象者の適格基準に繋げたい。

キーワード：生活習慣、体温、若年女性、冷え症

07 心地よい鍼刺激に向けての検討

○古田高征

履正社医療スポーツ専門学校

【目的】慢性の腰痛を持つ被検者に鍼刺激を行い、施術前後の腰痛症状の変化と自律神経活動の関連性を検討したので報告する。

【方法】研究は、実験についてインフォームドコンセントを行い、同意が得られた成人男子5名を対象に行った。

実験は、施術前後に腰痛の程度をVASにて記録した。自律神経機能は施術前後に心電計により心拍数・心拍変動係数、自動血圧計にて血圧を測定した。さらに圧トランスデューサーを用いて指先から圧脈波を施術前から終了まで測定し、積分処理波形から施術前後を比較した。

鍼施術は、ディスポーザブル鍼20号40mmを使用し、被験者を腹臥位として背腰部の肝兪、脾兪、腎兪、大腸兪、小野寺殿点の左右10ヶ所に行った。

【結果】施術後の腰痛のVASの変化から10%以上の低下を示した被検者を軽快者、それ以外を非軽快者として平均値を比較した。測定結果から軽快者は3名、非軽快者は2名であった。

腰痛のVASは、軽快者では70.0±12.7mmから51.5±17.7mmとなり、施術前に比べ27.6%の低下がみられた。非軽快者は73.0±14.7mmから66.5±16.4mmとなり、施術前に比べ8.6%の減少であった。施術前後の心拍数について、軽快者では71.8±3.5拍/分から69.3±3.8拍/分、非軽快者では83.3±2.9拍/分から81.7±3.1拍/分となった。血圧について、軽快者では118/75mmHgから119/73.5mmHgとなった。非軽快者では115/78mmHgから126/83mmHgと上昇がみられた。また圧脈波の積分値は、軽快者では65.0m±13.2mV/秒から60.9m±21.5mV/秒と0.9%の減少であったが、非軽快者では51.4±15.3mV/秒から37.2±18.3mV/秒と27.6%の減少がみられた。

【考察】一般に鍼灸施術は副交感神経活動を高め、自然治癒力を高めると言われることが多い。今回、症状のVASの変化から被験者を分け、自律神経活動の変化をみたが、症状の非軽快者では血圧上昇や圧脈波の低下がみられ、交感神経活動の亢進が伺われた。よって施術において血圧や圧脈波の変化を確認することにより、施術中の患者の評価に活用できると考えられた。

【結語】鍼施術により腰痛VAS値の低下が少ない非軽快者では、血圧上昇や圧脈波積分値の低下がみられた。

キーワード：腰痛、血圧、圧脈波、心拍数

08 月経周期の異常に対する鍼治療の効果

－血中レプチン濃度とその他ホルモンへの影響－

○仲村正子¹⁾、田口玲奈²⁾、伊藤和憲²⁾

1)森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科

2)明治国際医療大学鍼灸学科はり・きゅう学講座

【目的】 月経周期の異常に対する鍼治療の効果はいくつか報告されているが、その効果とメカニズムは十分に解明されていない。レプチンは脂肪細胞から分泌されるペプチドホルモンで、肥満やエネルギー代謝と密に関係があるが、近年、生殖機能に関わることが明らかになってきている。そこで、月経周期の異常に対する鍼治療の効果と血中レプチン濃度およびその他のホルモンへの影響を検討した。

【方法】 対象は本学学生18名とした。無治療期間と治療期間の各々3ヶ月を設定し、2群間のクロスオーバー・デザインで行った。治療期間では1週間に1～2回、鍼通電療法を行った。また研究期間を通して起床時の基礎体温を記録させ、血清中の黄体形成ホルモン、卵胞刺激ホルモン、プロラクチン、エストラジオール、テストステロン、レプチン、プロゲステロンを測定し、研究開始前、研究開始3ヶ月、研究開始6ヶ月で比較した。統計処理は、採血の結果は一元配置分散分析を行い、基礎体温表の結果は排卵回数に関してはカイ二乗検定を行い、その他はT検定を行った。

【結果】 研究期間中に18名のうち8名が脱落し、被験者は10名(平均年齢20.0±2.2歳)となった。月経周期日数、月経持続日数、黄体期日数、排卵回数、および各種血漿ホルモン値は、鍼治療期間と無治療期間との間で有意差は認められなかった。しかし被験者を個々で解析すると、10名中6名(60%)で月経周期の改善または正常周期には至らないものの改善傾向がみられた。それらはBMIまたは体脂肪率が正常範囲内の症例であり、月経周期が改善されたものはその他のものに比べて研究期間全体を通してホルモン値が基準値外である割合が低かった。

【考察及び結語】 鍼通電療法は月経周期および各種ホルモン値に影響を及ぼさなかったが、個々での解析では月経周期の改善がみられたことから、生殖機能に何らかの影響を及ぼした可能性が考えられた。また、ホルモン値が正常である軽度な月経周期異常やBMI、体脂肪率が正常範囲内の症例では、月経周期の改善に至った可能性が示唆された。しかし、他の報告と比較して有意な変化ではなかったことから対象者の選択、研究デザイン、治療部位等に改善の余地があると考えられた。

キーワード：月経周期、月経不順、レプチン

09 高強度運動前の鍼通電刺激がエネルギー代謝と運動パフォーマンスに及ぼす影響

○吉田行宏

明治国際医療大学鍼灸学部はり・きゅう学講座

【目的】 運動負荷前の鍼通電刺激(EA)は、乳酸や呼吸代謝に影響を及ぼすことが報告されている。本研究では大腿部にEAを行った後に高強度の運動を負荷し、糖・脂質代謝と、運動パフォーマンスへの影響を検討した。

【方法】 対象は週3日以上の上の定期的な運動を行っていない健康成人男性6名(21±1歳)とした。無刺激対照(cont)群とEA群を設け、同一被験者に対して順序をランダム化し2回の介入を行った。運動負荷は自転車エルゴメーターで、最大酸素摂取量の80%の強度で20分間行なった。EAは運動負荷前に両側の内側・外側広筋、大腿直筋それぞれの近位と遠位に40mm20号のステンレス鍼を筋に達するまで刺入し、周波数2Hz、筋収縮が起こる強度で20分間行なった。cont群は20分間の仰臥位安静とした。エネルギー代謝の指標として血中乳酸(BL)、血中遊離脂肪酸(FFA)を、パフォーマンスの指標として下肢の疲労感と筋痛、自覚的運動強度(RPE)を測定した。BLとFFAは被験者の自己採血で得た血液を試料とした。BLは負荷前と負荷開始から終了まで1分ごとに乳酸測定器を用いて、FFAは負荷前と負荷後に採取した血液を遠心分離した血漿を試料とし、分光光度計を用いた比色法にて定量した。下肢の疲労感と筋痛は負荷前後にVASを用いて、RPEは負荷後に評価した。本研究は明治国際医療大学ヒト研究倫理委員会の承認を得て行なった。

【結果】 BLは両群とも運動負荷2分後から上昇した。FFAはcont群で負荷前 0.140 ± 0.096 mEq/Lから負荷後 0.216 ± 0.163 mEq/L、EA群で 0.149 ± 0.108 mEq/L、から 0.144 ± 0.014 mEq/Lであった。下肢の疲労感はcont群で 12.2 ± 6.3 mmから 68.0 ± 14.7 mm、EA群で 13.7 ± 13.4 mmから 63.3 ± 16.4 mmであった。下肢の筋痛はcont群で 5.7 ± 5.3 mmから 20.8 ± 6.0 mm、EA群で 7.3 ± 9.3 mmから 16.2 ± 15.5 mmであった。RPEはcont群 16.7 ± 0.8 、EA群 15.7 ± 2.2 であった。全ての項目で両群間に有意な差は認められなかった。

【考察】 高強度運動負荷時のエネルギー代謝と運動パフォーマンスに対して、鍼通電刺激の影響は認められなかった。

【結語】 負荷強度が強いと鍼通電刺激の影響が認められない可能性が示唆された。

キーワード：エネルギー代謝、乳酸、脂肪酸、下肢の疲労感、鍼通電

10 月経中における月経随伴症状に対する鍼灸治療の効果

— 婦人科疾患を有する36名2月経周期の検討 —

○高橋涼子¹⁾、中村真理^{1,2,3)}

1)関西東洋医学臨床研究会、2)森ノ宮医療大学、3)まり鍼灸院

【目的】 月経随伴症状は月経開始直前や月経中・後に発生する不快な症状の総称である。我々は先行研究で、婦人科疾患有群（以下有群）の、月経中のMDQ(Menstrual Distress Questionnaire) 7尺度における初診時（以下治前）から1月経周期終了までの効果を報告した。今回は有群の、2月経周期終了後（以下治2）に月経中の効果を比較検討したので報告する。

【方法】 対象は2009年1月～2012年3月に本鍼灸院に来院した有群初診患者45名の内、2月経周期まで問診の取れた36名（平均年齢37±3.2歳）とした。調査時期は治前と治2とした。調査内容は月経中のMDQ7尺度（水分貯留・集中力・否定的感情・行動の変化・痛み・コントロール・自律神経失調）の各々合計スコアについて比較検討した。MDQ7尺度は、症状なし・弱い・中くらい・強い の4件法で回答してもらった。鍼灸治療は本治法として中医弁証配穴と、標治法として月経症状に対する共通穴を用いた。40ミリ・16号ステンレス鍼を次髎（BL32）に20ミリ、三陰交（SP6）に10ミリ刺鍼し8分間置鍼した。腰俞（GV4）、関元（CV4）には間接灸を1壮行った。なお、治療頻度は1～2週に1回とした。分析はSPSS（Ver.19 IBM）を用い対応のあるt検定を実施し、有意水準は5%未満とした。

【結果】 月経中のMDQ7尺度中、水分貯留・行動の変化・痛みの3尺度のスコアに有意な改善が見られた。中央値は水分貯留4.0から3.0、行動の変化5.0から3.5、痛み8.0から6.0となった。また、有意な改善が見られなかった4尺度のうち、集中力・否定的感情の2尺度は中央値の改善が見られた。治療回数は平均4.5回であった。

【考察】 当院の先行研究と対象人数は異なるが、月経中の1月経周期の検討では7尺度中、自律神経失調の1尺度しか有意な改善が見られなかった。今回は、水分貯留・行動の変化・痛みの3尺度のスコアに有意な改善が見られた。鍼灸治療の継続によりMDQの尺度に改善がみられることが示唆された。婦人科疾患有群でも2月経周期治療をするとMDQの尺度が有意に改善することがわかった。このことから、臨床上において月経中の症状で悩む患者説得に使えるデータと考える。今後この研究が教育機関等のRCTによる研究のきっかけに繋がると幸いである。

【結語】 有群の月経中の症状に対し2月経周期に渡り鍼灸治療を行うことで、大項目7尺度中3尺度のスコアに有意な改善がみられた。今後は弁証別に分けた比較や、さらに長期の継続した治療についても比較検討をしていきたい。

キーワード：月経随伴症状、鍼灸治療、中医弁証、MDQ、2月経周期

11 頭部・体幹に著明な不随意運動を認めたジストニア患者に対する鍼治療効果

○安田清華^{1,2)}、高橋護^{2,3)}、井尻朋人⁴⁾、谷万喜子⁵⁾、鈴木俊明⁵⁾

1)関西医療大学附属診療所研修員、2)健康スタジオキラリkirari鍼灸・マッサージ院

3)スピカ鍼灸・マッサージ院、4)医療法人寿山会法人リハビリテーション部

5)関西医療大学大学院保健医療学研究科

【目的】 頭部・体幹に著明な不随意運動を認めたジストニア患者に鍼治療を行い、効果を得たので報告する。症例には十分な説明を行い、発表への同意を得た。

【症例・現病歴】 52歳男性。X-2年1月に頸部のふるえ、同年6月に左手のふるえが出現した。内服薬で不随意運動は止まらず、同年9月A病院にてジストニアと診断された。B病院にて、ボツリヌス治療、ナーブロックで改善せず、X年4月関西医療大学附属鍼灸治療所で鍼治療を開始した。

【所見】 初診時には、座位・立位共に頭部伸展・右回旋、肩関節内旋・内転とともに体幹伸展を呈し、不随意運動が著明で安静をとれず、歩行も困難であった。顔面にも不随意運動を認めた。頭部伸展・右回旋は両側頭板状筋、特に右頭板状筋の筋緊張亢進によると考えた。胸鎖乳突筋の筋緊張亢進を認めたが、これは頭部の伸展を抑制するための活動とみられた。しかし、頸部伸展位で胸鎖乳突筋が収縮するとさらに頭部は伸展するため、治療対象と考えた。肩関節内旋・内転の要因は、広背筋の筋緊張亢進、体幹伸展の要因は胸腰椎移行部での多裂筋および広背筋の筋緊張亢進と、伸展を制御できない両側腹筋群の筋緊張低下と考えた。

【治療・経過】 不随意運動抑制目的で百会、上肢の不随意運動改善目的で両側上肢区、顔面の不随意運動抑制目的で両側風池、両側胸鎖乳突筋の筋緊張抑制目的で両側合谷、両側頭板状筋の筋緊張抑制目的で両側後溪および両側外関、両側腹筋群の筋緊張促進目的で両側衝陽、両側広背筋、多裂筋の筋緊張抑制目的で両側崑崙、左前鋸筋の筋緊張促進目的で左丘墟に、30ミリ、20号のステンレス鍼で置鍼した。置鍼時間は目標とする筋緊張が改善するまでとし、最大30分間であった。鍼治療開始10カ月後に、座位・立位時の不随意運動および体幹・頭部の伸展は改善した。しかし歩行時に、左肩甲帯屈曲・挙上、肩関節内旋とともに、体幹と頭部の伸展が生じて、歩行が困難であった。左肩関節内旋の要因と考えられる左小胸筋へのダイレクトストレッチングを追加した。鍼治療開始時と鍼治療開始13カ月後の変化は、安静時の頭部伸展が45° から0° に、30秒の歩行で出現する不随意運動が45回から0回となった。

【考察・結語】 立位で体幹伸展位では、頭部が基底面より後方になり伸展しやすい状況となる。そのため、本症例では頸部筋と同時に体幹筋も治療したことで頸部姿勢の改善、不随意運動の軽減を得たと考えた。

キーワード：ジストニア、不随意運動、鍼治療、循経取穴、ダイレクトストレッチング

12 鍼灸における補完代替医療効果の検討（第18報）

—急性脳梗塞（ブローカ言語野損傷）に対する鍼灸治療（2症例）—

○花谷貴美子

花谷整骨鍼灸院

【目的】今回は急性脳梗塞（ブローカ言語野損傷）による運動性失語の2症例に対し、早期の鍼灸治療を行い、言語と運動機能の回復がされた結果を報告する。

【症例1】68歳女性。現病歴：X年5月27日朝に言葉の障害、右半身不完全麻痺が起り、急性脳梗塞（心原性脳梗塞）ブローカ言語野の損傷を診断されて入院。発症3日後家族の依頼を受けて入院先で鍼灸を開始。

【症例2】76歳女性。現病歴：X-3年10月急性脳梗塞（ブローカ言語野損傷）による入院。発症5日後家族の依頼による鍼灸治療。

【所見】症例1は不整脈、単語レベルでの聞き取りが困難。Brunnstrom StageⅢ。感覚は重度鈍麻。FIM21点（運動13，認知8）。症例2は心臓弁膜症、一文字の発音が可能、会話はできない。Brunnstrom StageⅢ。FIM 19点（運動12，認知7）、感覚鈍麻、顔面神経麻痺がある。**【四診法】**症例1は弦脈、暗紅舌、苔薄白、肝風内動と弁証し、平肝疏風とした。症例2は滑脈、舌淡、白苔。風痰阻絡による気血の凝滞と弁証し、疏通経絡の治療原則とした。鍼は50mm20号鍼、隔日計13回行った。言語障害は廉泉、頰車、顔面神経麻痺は水溝、地倉、運動麻痺は百会、四神聰、風池、合谷、足三里に行い、お灸は気海、腎兪を施した。

【評価と結果】Visual Analogue Scale（VAS）を用いて感覚鈍麻、ADLはFIM（Functional Independence Measure）による評価をした。症例1は3診目で涎が減少し、13診目単語6文字の発音が可能。VASは78mm（初診）→15mm（13診目）、FIM 39点（運動30，認知9）へ改善された。症例2は単語三文字（3診目）→簡単な会話（13診目）が可能。VASは84mm（初診）→17mm（13診目）へ、FIM 36点（運動28，認知8）へ回復をした。

【考察】急性脳梗塞による運動性失語症は脳の言語機能の中枢（ブローカ言語野）が損傷され、言語機能、音声機能が障害された状態。急性期の薬治療、リハビリテーションを中心に、鍼灸治療を加え、脳の血流を促進し、損傷した脳神経のネットワークを再生させ、日常生活動作、運動機能、嚥下機能、高次脳機能を改善し、回復期に後遺症を減らすことができると考えられた。

【結語】今回、急性期の脳梗塞（ブローカ言語野損傷）の2症例に早期の鍼灸治療を行い、脳の血流を促し、言葉や運動機能を改善し、急性脳梗塞に対して鍼灸治療は試みる価値のある補完代替医療と示唆された。

キーワード：急性脳梗塞、鍼灸、ブローカ言語野、心原性脳梗塞栓、ADL

13 勃起障害に対する中髎穴と陰部神経鍼通電刺激の併用効果

○伊佐治景悠¹⁾、邵仁哲²⁾、北小路博司³⁾、平尾穂那美⁴⁾、

高羽夏樹⁵⁾、角谷英治⁴⁾、納谷佳男^{5,6)}

1)SR鍼灸烏丸

2)京都第二赤十字病院泌尿器科

3)宝塚医療大学保健医療学部鍼灸学科

4)明治国際医療大学はり・きゅう学講座

5)明治国際医療大学泌尿器科学教室

6)長浜市立湖北病院泌尿器科

【目的】 これまでに我々は、中髎穴への鍼刺激が陰茎海綿体神経より一酸化窒素を放出させることで勃起機能を亢進させることを報告しており、勃起障害（ED）の治療法として用いている。今回、中髎穴への鍼刺激のみでは十分な効果が認められなかった症例に、陰部神経鍼通電刺激を加えたところ治療効果が上昇したため報告する。

【症例】 21歳男性。パートナーとの性交でEDを自覚したが、PDE 5 阻害薬の服薬を拒否し鍼治療を希望した。病院では、身体所見や臨床検査に異常が認められなかったため心因性EDと診断された。また、治療前のIIEF-5は7点であった。

【治療・経過】 鍼治療は、初回から5回目まで中髎穴刺激のみ、6回目から15回目までは中髎穴刺激に陰部神経鍼通電刺激を加えた。中髎穴刺激は、ステンレス製毫鍼（60mm、30号）を中髎穴から仙骨に沿わずように刺入し10分間の徒手刺激を行った。陰部神経鍼通電刺激は、ステンレス製毫鍼（90mm、30号）を上後腸骨棘と坐骨結節を結んだ中点から刺入し、10Hzの痛みが起こらない最大強度で行った。なお、本症例の報告に際して、患者の同意を得ている。

IIEF-5の点数は、5回目終了時（中髎穴刺激のみ）12点、6回目終了時（陰部神経鍼通電刺激を加えた最初の治療後）17点、10回目終了時16点、15回目終了時20点と陰部神経鍼通電刺激を治療に加えてから点数が著明に上昇した。

【考察・結語】 陰茎海綿体神経（遠心路）のみならず、陰部神経（求心路）へのアプローチを行うことで治療効果が上昇するED症例もあると示唆される。今後、症例数を増やして陰部神経鍼通電刺激の適応症状などの詳細を検討していきたい。

キーワード：勃起障害、陰部神経、鍼通電刺激、中髎穴、併用効果

平成 30 年度 (公社)全日本鍼灸学会第 38 回近畿学術集会 関係一覧

支 部 長	尾崎朋文	森ノ宮医療大学
学術委員	王 財源	関西医療大学
学術委員	河井正隆	明治東洋医学院専門学校
学術委員	齊藤真吾	平成医療学園専門学校
学術委員	坂口俊二	関西医療大学
学術委員	佐野淳子	神戸海星鍼灸院
学術委員	弘中昌博	森ノ宮医療学園専門学校
学術委員	松熊秀明	森ノ宮医療大学
学術委員	吉田行宏	明治国際医療大学
学術委員	和辻 直	明治国際医療大学

(五十音順、敬称略)

協力団体 明治東洋医学院専門学校

広告掲載 株式会社山正
関西医療大学・関西医療学園専門学校
宝塚医療大学・平成医療学園専門学校
明治国際医療大学・明治東洋医学院専門学校
森ノ宮医療大学・森ノ宮医療学園専門学校

展 示 株式会社山正
セイリン株式会社